

《史料紹介》

春山作樹著作等関係資料目録

——『春山作樹教育論集』編纂等関係資料目録——

吉田昌弘 小林正泰 菊池信太郎 土方苑子

目次

1. 解題

- 1-1. はじめに
- 1-2. 春山作樹について
- 1-3. 『春山作樹教育論集』編纂刊行事業と資料収集
- 1-4. 資料整理事業について

2. 翻刻資料

3. 目録

- 3-1. 凡例
- 3-2. 春山作樹著作等関係資料目録

1. 解題

1-1. はじめに

本目録は、現在研究室で保管している、『春山作樹教育論集』編纂等関係資料の目録である。この資料群は、後述する通り、『春山作樹教育論集』の編纂刊行事業にあたって収集され・発生した資料であり、そのうち事業のメンバーであった江森一郎氏のもとに集積し、保存されていた資料である。したがってその性格上、本資料群は副題のように『春山作樹教育論集』編纂等関係資料等と称するのが適切なものと思われるが、資料の歴史的な「貴重さ」を明らかにするために、本目録は標題のように称することとした。

これらの資料は、2003年6月に、本研究室OBである江森一郎氏より、段ボール箱三箱詰めで、土方苑子教授（現名誉教授）宛に送付されたものである。2006年度より、土方教授、教務補佐小林正泰、大学院学生菊池信太郎が、また、土方教授退職後2007年度以降は小林と教務補佐吉田昌弘が職務として、整理にあたって現在に至っている。現在未だ整理作業中であり、保存と供用に向けた処置を続ける必要があるが、まず目録について一応のものが整ったので、

それに簡単な解題を付して発表することとした。

本目録は、目録本体と解題の二部からなる。解題については、第一に春山作樹自身について、第二に『春山作樹教育論集』編纂事業と資料収集について、第三に、この度の文書の整理事業自体について、述べる順序としたい。

1-2. 春山作樹について

春山作樹は、明治～昭和初期に活躍した教育学者である。1919（大正8）年東京帝国大学文学部教授に任ぜられ（教育学第三講座）、1935（昭和10）年在職のまま死去した。1876（明治9）年産まれ。第五高等学校から、明治30年に東京帝国大学文科大学哲学科に入学し、さらに大学院（教育学専攻）に進んだ。明治37年、新設の広島高等師範学校教授に任ぜられ、その後大正8年に前記東京帝国大学文学部教授に転じた。大正9年に文学博士号を授与されている¹⁾。東京帝国大学文学部では、大正9年9月より、「教育学概論」（「教育学概説」）、教育史概論、各科教授法の講義を他の教官と交代で担当し、特殊講義として「本邦近世教育史」「訓育論」「日本教育史演習」「社会教育事業通論」などを行った²⁾。

現在我々が通常手にとれる春山の著作としては、同時代の雑誌に掲載されたものや単行本の他、まず『日本教育史論』（1979年）が挙げられる。この書は標題の通り、春山の日本教育史関係の著作を編纂するとともに解説、著作目録等を付したものである。現在のところ、春山を知るために有力で最も普通にとり得る方法はこの書を参照することであるが、その方法による春山像は、結果としては「日本教育史」研究を中心とした性格の強いものとなる。

しかし、この書は、元来『春山作樹教育論集』のうちの一冊として計画・編纂されたものであった。（ただしこのことは、この書自体からは、「刊行の辞」の記名に「春山作樹教育論集刊行委員会」とあるこ

とから知られるのみであって、本の標題には『春山作樹教育論集』の文字は何ら見られない。) また、同書所収の「春山作樹著作目録」によれば、春山の単著として判明しているものは9冊であるが、うち演習用の資料集として編まれた『王朝教育史資料』を除いては、教育史を謳った書物は含まれていない。一方いわゆる教育学の概論に相当する書としては、『教育学概論』『教育学大意』『教育学講義』などがある。すなわち、一方で、春山の教育学について、教育史がその「基軸をな」しており、また春山の業績が、日本教育史研究として「先駆的」で、「ユニーク」な方法をもつという評価ができるとしても³⁾、教育史研究者という理解から春山をとらえてゆくことは、春山自身に対していくばくかの齟齬を含んでいるとも言えよう。またあるいは、社会教育学の側からは、「日本の社会教育は春山作樹によってはじめて教育学の科学的研究の対象として積極的に位置づけられるようになった」⁴⁾と、社会教育研究の嚆矢という位置づけを受けてもいる。そして、のち1992年には、社会教育に関する春山の著作等が『社会教育基本文献資料集成』第12巻、第13巻として印影刊行されている。これは上記『春山作樹教育論集』編纂刊行事業のメンバーであった小川利夫の監修によるもので、小川はこの書を『日本教育史論』に続くいわば第二弾⁵⁾とも述べている。

現在の教育学の各専門の視点から春山を評価することもできるが、しかし、春山研究ということ言えば、日本の教育学の歴史上、教育学の各専門分野が未だ人的にも組織的にも独立しなかった時代背景を前提にした理解も求められる。春山が東京帝国大学に入学したのは明治30年のことであり、大瀬甚太郎講師の講義を聞いたと思われる。そして東京帝国大学の組織について言えば、教育学の講座が五講座へと増設され、人員の上でいくらか分化した陣容をとり得るような体制を整えたその最初に着任した一人が春山なのである。その意味で、一方で、現在の各専門分野の教育学研究を前提にした関心からとらえるとしても、春山は教育史研究史、社会教育研究史のみに位置づくものではない。またもう一方で、そもそも、そのような時代が春山の背景にあるとすれば、そのことが、現代の教育学の各専門の研究者、ないし現代の各専門の教育研究者にとって春山を知る一つの意義ともなるだろう⁶⁾。

1-3.『春山作樹教育論集』編纂刊行事業と資料収集

『春山作樹教育論集』の編纂と刊行

本資料を理解するために、『春山作樹教育論集』編纂刊行事業について、本資料から知り得ることをごく簡単に見ておきたい。

本事業の出発事情を伺わせる資料に「春山会会報 No1 1976.5.1」【27】⁷⁾所収、がある。この資料の内容は本解題の後に翻刻して収めた。1976年4月25日と26日に「準備会」を持って、「編集委員会」が発足したこと、この段階では『春山作樹教育学全集』の企画が示されていたことがわかる⁸⁾。筆者が江森氏から直接伺ったところでは、この刊行計画はもともと小川利夫(1976年当時名古屋大学在職)を中心とした社会教育研究者が考えていたものであり、一方で日本教育史の先行研究者としての春山に注目していた江森氏は、その関心から海後に面会した際、この計画の実務担当として参加することを誘われた、ということである。尚、上記「春山会会報」に示された『全集』『編集委員会』のメンバーから、古木弘造が故人となったほか、春山秀樹と江森一郎を加えたメンバーが『日本教育史論』時点での「春山作樹教育論集刊行委員会」を構成している。また編纂刊行には河原亜代も関与している⁹⁾。「春山会」、『全集』編集委員会、『教育論集』刊行委員会いずれも海後宗臣が代表となっている。春山の「著作集」出版計画は戦前にも持ち上がったことがあり、海後はそれにも関与していたようである。春山の指導を直接受けた海後、飯田、古木にとっては、特に春山が日本教育史関係の著作を公にしないまま病没したという経緯もあって、この編纂刊行事業は宿志でもあっただろう¹⁰⁾。

以後、春山作樹の著作一覧作成に着手し【27】、その成果を踏まえて元受講者等を含む東京大学教育談話会の会員等に¹¹⁾8月3日付で資料の情報提供等の協力依頼の手紙を送付し【30.02.03】、9月はじめにはその回答のまとめを行って【27】、資料の所在等についての調査は一段落したようである。これ以降、「春山作樹著作目録」が作成され、1977年に『名古屋大学教育学部社会教育研究室研究年報』に、さらにより完全なものが『日本教育史論』に掲載された。尚著作収集と同目録作成の実務は江森が、聴講者ノートの収集の実務は直接には小川が担当したようである¹²⁾。

編集はまず『日本教育史論』から着手し、1977年6月末には出版社の国土社と構成案について大筋で了解ができたようである【33.04.01】【27.07.22】【27.07.01等】【27.10】。それ以降実質的な作業に入り、結局翌々1979年5月までには出版社に原稿を提出している【18.07.03】。刊行は1979年9月になった模様である【18.10】¹³⁾。

『春山作樹教育論集』の刊行が何故に『日本教育史論』一巻にとどまったか、その事情を窺わせるものとして以下のような資料がある。

【19】〔『春山作樹教育論集』刊行委員会賛助会員募集の書簡案〕

〔……前略〕さて、かねてからご高配いたゞきました『春山作樹教育論集』がようやく刊行されるはこびとなりました。本来なら『論集』の構成全体をあらかじめ明らかにしたうえで刊行されるべきものでありますが、率直に申しあげまして大変残念乍ら、目下の出版事情では、それが許されません。そこでまず春山先生の『日本教育史論』（日本教育史に関する主要な諸論文）を刊行することにいたしました。そして、その状況により、先生の名著『教育学講義』および『社会教育概論』その他も刊行されることになりました。〔後略……〕

これは、刊行委員会の「賛助会員」となって定価の二割引で『論集』の先行予約をすることを呼びかけるための文の案として書かれた内容である。そのような趣旨から、『論集』全巻の刊行を何とか担保しようとする意図を量ることができるが、実際に予約を受けたか否かは不明である。文案は1979年5月以前の作成と推定され、作成者は小川利夫と思われる。この文から、『論集』の刊行が中絶した理由として、「出版事情」を推測することもできよう。尤も、刊行より後12月26日の時点で、担当編集者から江森一郎宛の書簡中に「来年は続編をやりたいと思っています」【18.04】という言葉がある。出版中絶について、出版社である国土社内部を含めていかなる事情があったか、これ以上は詳らかでない。

『全集』ないし『教育論集』全体の構成を示す案が資料中に含まれているので、本編纂刊行事業についての関心を提起し、今後の参考に資するため、翻刻して本解題の後に示す。尚、この案の作成時期は不明である。しかし、先の「春山会会報」中の構成案

では第二巻に「町人興起以前本邦教化の発展」が含まれていないのに対し、この案の方ではそれが含まれており、内容も大きく変わっていることを、後述する自筆稿本・ノート類が「発見」されたことによるととらえるなら、1977年以降¹⁴⁾の案と見るようになるだろう。

資料の収集

上記の経過の中で、いくつかのタイプの資料が収集されたことが窺われる。まず第一に、「町人興起以前本邦教化の発展」等の春山作樹自筆稿本と、自筆講義ノート類である。これは、春山の没後書斎整理を行った際に見出され、戦前の「著作集」出版事業にあたってそれに収められる予定であったが、それが頓挫した際、海後宗臣が括って保存したものとされる。その後所在不明になっていたが、教育学部の創設、新築移転などを挟んで、東大教育学部図書室の片隅から刊行委員会が「発見」した¹⁵⁾。第二に、元受講者らに呼びかけて集めた講義ノート類である。これは実物は持ち主に返還したようであり、コピーを行って著作等とまとめて江森の許に残したようである。これらは再度収集するのは極めて困難なものであり、実質的に原本と同じ注意を以て保存されるべきであろう。第三に、著作の刊行物の原本である。これらの書籍・雑誌類について、いかなる経路をたどったか判定しづらいものも多いが、文学部教育学研究室所蔵であったことが判明するものもある。第四に、著作の刊行物のコピーであり、コピーという手段を以て著作収集を徹底して行った様子が見られる。その他、以上にあてはまらないもので収集資料と思われるものも、現に資料群中に含まれているが、それについては目録を参照されたい。

1-4. 資料整理事業について

上記のような収集資料と、さらに、編纂刊行事業の中で作成された文書で、事業の一方の実務担当者であった江森一郎の許に集積したものが、本資料である。江森は『日本教育史論』刊行当時すでに宮城教育大学へ着任しており、その後この資料を永らく保存していたが、この度本研究室の土方苑子教授（現名誉教授）宛に資料が送付された。冒頭に記載した通り、2007年度以降は研究室の教務補佐として小林、吉田が整理にあたっている。本目録の著作者は、整理事業の沿革を踏まえて、整理作業にあたった四名とした。

本資料が、単に春山作樹関係資料というだけではなく、戦前の「著作集」出版事業、さらにそれを引き継いだ『教育論集』編纂刊行事業に関わる資料という性格を重層的に持っていることは、この資料群の資料や周辺の資料を検討することによって明らかである。この『春山作樹教育論集』編纂刊行事業は、「編集委員会」「刊行委員会」のメンバーを中心として個人の共同事業として行われたが、そこに込められた学問的位置づけについては既述の通りである。

今、研究室の事業としてこの資料を整理することになったが、今後の保存・供用を含めて、広く教育学一般に資するものとして位置づけられなければならないだろう。研究科・研究室が存在する本旨に照らして、教育学を通して公共の利益に資するものとして、これらの組織として資料整理・保存・供用のための体制が整備されることを望むものである。

(文責 吉田)

2. 翻刻資料

【27】所収「春山会々報 No1 1976.5.1」(20字×20行「教育現代社用箋」にペン横書きのものをコピー)

春山会々報

No.1 1976.5.1

春山会・事務局

『春山作樹教育学全集〔「全集」部分にペンで○印〕¹⁶⁾』の編集ならびに公刊の体制がようやく軌道にのりました。さる4月25日(古木弘造宅)と26日(東大・海後研究室)の準備会の結果、当面まず次のような形ですすめることになりました。

I 『春山作樹教育学全集』編集委員会

代表 海後宗臣
飯田晁三
古木弘造
碓井正久
小川利夫
橋口 菊

II 全集の構成(第1次案)

第一巻 教育学講義

(教育学概論、教育学大意、各科教授法をふくめる)

第二巻 日本教育史論(講義ノート)

①中世の教育②佐藤信淵③江戸時代の教育④〔ママ〕寺子屋④〔ママ〕芸術教育論⑥その他

第三巻 社会教育学概論

①岩波講座②講義ノート

第四巻 現代人の教養と教育

付:『婦人世間道場』

『交際の常識』

その他

第五巻 教育と社会の改造(教育改革論)

①経済と教育

②師範学校制度論・教師論

③男女共学

④教育時評

別 卷 春山作樹の人と業績

①伝記

②日記（？）手紙・写真

③回想（『教育思潮研究vol10-No2）（『なきはママ』

『教育』vol4-No2、その他

III 今後のすすめ方

1. 2－3年で完成させる。

2. 出版社については、海後先生に一任する。

3. 当面の重点的な仕事は、次の2点にしばられる。

(1) 未見ないし未確認の論文・講演速記、時評などを発見し、蒐集する。

(2) 講義ノートおよびノートのプリントを蒐集する。

そのために、談話会その他広島高師、文部省、呉海軍工廠、仏教青年会、播州学生会などの関係者に対し、別紙のような紹介・協力依頼状を送る。そのさい、(1)、(2)について確認しえたものを一覧として記載したうえで協力を求める。

〔別紙〕

前略 向暑の候、御健勝の程お伺い申し上げます。

さて、大変突然それも書面にて失礼ですが私たちの師・春山作樹教授の人と業績について貴殿の御教示と御協力をえたいと存じ、お願い申し上げます。

春山教授のユニークなお人柄と鋭く博識な御器量については、かねてから私たちの敬服してやまないところでございますが、今日あらためてその全容を顕彰し、継承したいと考え、『春山作樹教育学全集』（別紙・案）（別紙欠）を公刊いたすことになりました。

ついては、私たちの意図に御賛同いただき、下記の諸点について貴殿の御意見ならびに御教示をえたいと存じます。何卒よろしく御協力下さいますようお願い申し上げます。

一九七六年 月 日

『春山作樹教育学全集』編集委員会

代表 海後宗臣

飯田晁三

古木弘造

碓井正久

小川利夫

橋口 菊

記

I 全集の構成案について

II 著作・論文一覧について（とくに、未見のものについて）

III 講義・演習の様子について

① ノートの所有の有無

② 講義・演習についての回想

IV 写真、手紙その他関係資料の有無。

V 資料蒐集についての紹介ならびに御助言

VI その他

草々

【27】所収〔一卷～五巻構成案〕（レポート用紙にペン横書きのものをコピー。年代不明。全体構成案は第一巻の構成案の下部に書かれているが、翻刻では冒頭に置いた）

一卷 概論	1027p
二巻 日本教育史	782p
三巻 社会教育	414p
四巻 現代人の教養と教育	771p
五巻 教育と社会改造	676p

第一巻 教育学講義

教育学概論	4.6版	213p
教育学大意	4.6	363p
教育学講義	菊	303p
M.36 最新教育学講義		148p
		1027p

第二巻 日本教育史論

		タテ	
	町人興起以前本邦教化の発展	自筆	25×10（約300p.） 実質 150
大9.2	教育史概説（自筆ノート）		40×23 84p.
	江戸時代の教育		29p.
	熊沢蕃山のエ育意見		27p.
	本邦教育学の祖益軒先生		13p.
	佐藤信淵のエ育観		15p.
大11.1	山鹿素行と本居宣長		12p.（東亜の光）
大10.9～	本邦教化の史的考察		?（67p）（教論叢）
大14～	（歴史考察を本としたる芸術教育論		92p（教論））
S.9.	本邦教育史研究の意義		4p.（教育）
S.10	記憶に残った明治教育		26p.（教育）
M.44.	教育史参考書		10p.（教研・講集）
S.9.	教育史概説（プリント）		139p.
			665
M40.4	自筆ノート	117p.	
			782

第三卷 社会教育学概論 (附 公民教育、職業教育)

社会教育学概論〔「社会教育学概論」部分をペンで枠囲み〕 31p.

職業指導に対する社会教育の任務 9p. (職指)
ほか、文部省関係、小雑誌所載論文 (約81)

体育と社会教育 4p. (教育)

中学校の公民科 11p (教育)

公民科を活かす方法 9p (〃 〃)

職業教育に対する誤解 16p (丁酉)

教育上より見たる職指 15p (単行本)

社会教育と芸術 17p (単行本所収)

公民教育 29p. (岩. 講)

公民道德 57p (単行本)

(社会教育学一般 55p.
教育的社会事業通論 89p) (ノート)
((社会教育事学〔ママ〕通論(巻2) ()))

414p.

第四卷 現代人の修〔ペンで「教」を「修」と修正〕養と教育

現代人の教養と教育 四六版. 283p.

婦人道場 〃 290p

交際の常識 文庫版 (78p.) 実質39

優越欲 18p. (丁酉)

儀礼 8p (〃)

えらい人 21p (〃)

世間道場 7p (〃)

信念 5p. (〃 〃)

771p.

第五卷 教育と社会の改造 { 工業組織の変革と教育 27p. (教研. 講集)
経済と教育 29 (岩講)

①学校制度論

専門教育と一般修養. 高等学校の将来 12 (教思研)

M.40~41 中学校論争 46p. (教学界)

s.9 師範大学論争 41p.

師範教育の問題シンポ 39p (岩講) 学制改革論 (単行本)
計. 35p

②男女共学、女子教育論

大15 本邦女子教育の過去及現在 11 (教学界)
男女共学の問題 12 (岩講)

⑤この他の教育学各論

大10.1 個性と文化 29p (哲学雑誌)
大14 普通教育に対する疑義 34p (" ")
M.34 訓育上家庭の位置 13p (教学界)
S.4. 指導者の教育 7p (丁酉)

③各科教授論 M.43最近教授法講義 112p.

中等教育に於ける漢文科 15 (教思研)
新「小学校国語読本」の批判 5 (教育)
〔ペンで「国語教育論」と書き込み〕

④芸術教育論 芸術教育論. 46版157p. (単行本)

音楽の教育的価値 13p (教学界)
〔以下コピー不良につき判読不能〕

どの巻にも入れにくいのが収録した方が良いと思われるもの

大7.	本邦に於ける祖先崇拜の形式及意義の変遷	26.
〔判読不能〕 39	教育に関するゲーテの意見	20 (教. 講. 集)
	孔子と現代	13 (斯文)
〔判読不能〕 12	教育効果の増進	32 (単行本所載)
	西洋教育史 ノート	約50p.
		(141p.)
	19世紀に於ける教育の進歩	25p.
	欧米比較教育制度論	45p. (実質20p)

注

- 1) 「春山作樹・略伝」『日本教育史論』、1979年、東京大学教育学部史編集委員会編『東京大学教育学部30年記念誌』、1982年。
- 2) 前掲『東京大学教育学部30年記念誌』、東京帝国大学教育学研究室教育思潮研究会編『教育思潮研究』第十卷第二輯、1936年、p.128。
- 3) 春山作樹教育論集刊行委員会「刊行の辞」『日本教育史

論』、1979年。

- 4) 春山会「春山作樹著作目録」『社会教育研究年報』創刊号、1977年、名古屋大学教育学部社会教育研究室(小川利夫執筆部分)。
- 5) 『近代日本社会教育論の探求』、1994年、p.160。
- 6) この面に関わって、海後宗臣は、春山の歴史的な教育類型論について、「先生は教育の現象を広く考へられ、如何にして人間が教養されて来たかを問題とし、学校の狭い框より教育の概念を大胆に解放せられた。その際に

限りなく広がっている教育の事象を如何に把握するか非常に困難なことに属する。その奥の知れない教育事象を取扱ふ際の一つの手本を先生が書き残された。それが歴史的教育類型論であつたと私は教へられて来てゐる」(『春山先生の勸』『教育思潮研究』第十巻第二編、1936年、p.145)と位置づけており、この点も含む海後の春山作樹観は「春山作樹著作刊行委員会」(ママ)を発足させる契機であつたと江森一郎は述べている。(江森一郎「解説」『日本教育史論』、1979年、p.380)また小川利夫は、のち1994年の著作で、春山の「社会教育理論」の構造を考える前提として「春山教育学」について考察している。

- 7) 以下、本資料群中の資料を参照する際は、目録上の資料番号を【 】に括って示す。
- 8) この「春山会」について、前掲、春山会「春山作樹著作目録」『社会教育研究年報』創刊号、1977年には、「春山会(代表 海後宗臣、飯田晃三、故古木弘造、碓井正久、橋口菊、小川利夫および江森一郎)が昨年4月に発足して以来……」とある。「春山会」と「編集委員会」のメンバーはほぼ重なっていた。
- 9) 【27.07.23】【33.04.06～07】【27.07.19～20】、前掲「刊行の辞」『日本教育史論』p.3。
- 10) 海後宗臣『教育学五十年』、1971年、p.146、前掲「刊行

の辞」、『解説』『日本教育史論』。

- 11) 前掲「刊行の辞」『日本教育史論』、p.2。
- 12) 【27】、前掲「春山作樹著作目録」、【30.02】、【30.08】。尚、資料上に直接表れないが、江森氏によると、資料提供の呼びかけについて橋口菊が中心であつたかもしれないということである。
- 13) 【27.07.23】「第三回編集委員会資料」と、【33.04.06～07】【27.07.19～20】「第四回編集委員会資料」には1973年の日付が打たれているが、これは1978年(昭和53年)の文書ととらえる方が他とつじつまが合う。また後者の資料によれば、『日本教育史論』編集の進行と並行して『教育学概論』にも着手する方向で進んでいたようである。
- 14) 前掲「解説」『日本教育史論』、p.404に、「発見」は「二年ほど前」とある。
- 15) 前掲「解説」『日本教育史論』、p.404。尚江森氏から伺ったところでは、海後の教示により江森氏が探し始めたところ、教育学部図書室入り口横の小部屋から見つかったとのことである。またこれについて、海後は、一時唐沢富太郎氏に貸したものが返却されたものであると述べていたそうである。
- 16) []内は翻刻者が付したものである。以下同じ。

3. 目録

3-1. 凡例

資料番号

本資料群を整理するにあたって、まず整理開始時点の物理的秩序に従って個々の資料を特定し、「資料番号」を付し、特定された資料ごとに目録上の諸事項を記述した。

本資料群中には、とりわけ編纂関係の事務資料において、個々には断片的なものも多く含まれている。そのようなものには、一つの封筒に封入されている状態、複数の紙片が一つに折り込まれている状態などの、物理的な秩序を離れては意味が理解できなくなる可能性があるものも多い。したがって、個々の資料を特定し、「資料番号」を付すにあたっては、それらの物理的な状態を記述し得るような目録の構成方法をとった。

具体的には以下の通りである。

①ファイル、書籍、封筒、紙片など外形的に分離できるものごとに資料として特定し、資料番号を付した。

②資料番号を付した資料の中に、さらに外形的に分離できるものが含まれている場合は、それを資料として特定し、先に付した資料番号の下位に「.」で区切ってさらに番号を付した形の資料番号を新たに付した。

③物理的に分離できない状態になるまで②を繰り返した。ただし他と混乱の恐れがない場合には敢えて分離して特定しなかった場合もある。

例えば、【27】の資料は、一つのファイルに紙片が綴り込まれて固定されている外、多数のものが挟み込まれている。それらのまとまりの全体に資料番号【27】を付した。さらにファイルに挟み込まれているものの中に、ホチキスによって綴られた状態のもの(【27.02】など)もあり、あるいは単に紙片が折り込まれた状態のもの(【27.07】)も含まれている。このような場合、【27】に含まれているものに【27.02】【27.07】など

のように下位の階層の番号を付した。

その際、【27】について言えば、本来はファイル本体も【27】に含まれる部分として番号【27.01】を付すべきであるが、この場合にはファイル本体で【27】全体を代表させ、【27.01】は欠番とした。封筒に封入物がある場合も同様に、例えば【30】のまとまり全体を封筒で代表させ、【30.01】は欠番とした。一方、全体を代表させるべき部分が存在しない場合、例えば【27.07】などは、【27.07】の番号そのものは、紙片が折り込まれたもの全体に付したものとし、その部分たる紙片は【27.07.01】から番号を付した。

物理的に分離できない場合には、内容的に複数のものが含まれている場合でも、それを分割することはしなかった。必要な場合には内容について「備考」欄に説明を付した。例えば【27】のファイル本体に綴り込まれている紙片は資料番号【27】より細かくは分割していない。一方ファイルに挟み込まれているものは物理的に分割可能な限り個別の資料として特定した。

目録上の排列

一方で、本目録では、上の方法で特定された資料を、その内容上の性質によって分類して掲げることとした。その基準は、この資料群全体を、『春山作樹教育論集』編纂刊行事業の中で集積された資料であるとする見方に基づき、以下のような構成をとった。必要に応じ、「項」の下にさらに「目」を付した。

第1部 収集資料

第1款 原本

- 第1項 春山作樹自筆資料
- 第2項 刊行物
- 第3項 聴講者講義ノート
- 第4項 その他収集資料

第2款 複写物

- 第1項 春山作樹自筆資料
- 第2項 刊行物
- 第3項 聴講者講義ノート
- 第4項 その他収集資料

第2部 『春山作樹教育論集』編纂等事務資料

第3部 その他

同一分類内での排列は、資料番号の最上位のまとまりを崩さないこととしながら、判明するものについては年代順も加味した。

表記

その他表記上の事項については以下の通りである。

本資料群中には、複写機等が普及して以降の資料も含まれている。複写物の印刷形態を記述する際、複写の原本の印刷形態が判明する場合には「コピー（活版）」等のように（ ）に括ってそれを示した。

「コピー」はいわゆるゼロックスコピーの意である。

「折込」は、複数の紙片が一つに折り畳まれた状態を示す。

〔 〕の内部は目録作成者の判断で付した内容である。

いわゆる旧字体等は、現在通用する字体に改めた。

（本目録は、小林の作業にかかるものを吉田が修正して作成した。）

3-2. 春山作樹著作等関係資料目録

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
第1部 収集資料								
第1款 原本								
第1項 春山作樹自筆資料								
第1目 自筆稿本								
69	教育史 明治四十二年四月起稿 春山作樹	春山作樹		1909.4 起稿	綴	「春山用紙」 罫紙	ペン	
72	第十九世紀ニ於ケル教育ノ進歩	春山作樹			綴	罫紙	ペン	横書。メモ付属。(72.02)。
73	欧米比較教育制度論				綴	「春山用紙」 罫紙	ペン	
74	Education and Industrial Evolution by Prof. Dr. Carlton				綴	「春山用紙」 罫紙	ペン	
78	大正八年八月十六日起稿 同九月二十五日脱稿 町人興起以前本邦教化の發展 春山作樹	春山作樹		1919.9.25 脱稿	綴	「はるやま」 箋	ペン	
78-2	序編追加				綴	「はるやま」 箋	ペン	
78-3	第三章 武家の教化				綴	「はるやま」 箋	ペン	
78-4	余論				綴	「はるやま」 箋	ペン	
第2目 自筆ノート								
66	日本近代教育説資料	春山作樹			ノートブック		ペン	メモ付属 (66.02)。
70	教育史概説第二 大正九年二月起 春山作樹	春山作樹		1920.2 起	ノートブック		ペン	
71	教育史稿 春山作樹 明治四十三年四月起稿	春山作樹		1910.4 起稿	ノートブック		ペン	
75	教育史概説				封筒		墨書	自作封筒に標題を墨書。75.03～75.05を封入。メモ付属 (75.02)。
75.03	教育史 I				折込	ノートブックの切り離し	ペン	p.1～p.3。75に封入。
75.04	教育史 II				折込	ノートブックの切り離し	ペン	p.4～p.11。75に封入。
75.05	教育史 III				折込	ノートブックの切り離し	ペン	p.12～p.17。75に封入。
76	先哲遺訓 春山作樹抄				折込	ノートブックの切り離し	ペン	

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
76-2	教育史 大正六、四月				折込		ペン	標題を墨書した紙にノートの切り離し (p.1~p.4) を折込。
77	日本教化史				封筒		ペン	自作封筒に標題を墨書。77.02~77.04を封入。
77.02	本邦教化史 (社会教化学院) 春山作樹	春山 作樹			折込	ノート ブック の切り 離し	ペン	p.1~p.12。77に封入。
77.03	教化史II				折込	ノート ブック の切り 離し	ペン	p.13~p.24。77に封入。
77.04	教化史III				折込	ノート ブック の切り 離し	ペン	p.25~p.31。77に封入。

第2項 著作刊行物

第1目 著書

62	王朝教育史資料	春山 作樹編	長崎 書店	1930 発行	洋装本 (図書)		活版	教育学研究室蔵書ラベル貼付。
51	芸術教育論	春山 作樹	教育研 究会	1931 発行	洋装本 (図書)		活版	51.02を挟込。
53	交際の常識	春山 作樹	三省堂	1933 初版発 行、 1938百 五版発 行	洋装本 (図書)		活版	
65	現代人の修養と教育	春山 作樹	東洋図 書株式 合資会 社	1934 発行	洋装本 (図書)		活版	
49	婦人人間道場	春山 作樹	大日本 図書株 式会社	1936 発行	洋装本 (図書)		活版	函入。49.02を挟込。

第2目 論文等

63	教育研究会講演集第三輯 広島高等師範学校教育研究会		金港堂	1908 発行	洋装本 (雑誌)		活版	論文「工学組織の変革と教育」
64	教育研究会講演集第六輯 広島高等師範学校教育研究会		金港堂	1911 発行	洋装本 (雑誌)		活版	論文「教育史参考書」
52	東亜之光 聖哲号 大正十一年一月号 〔第十七巻第壹号〕		東亜協 会	1922 発行	洋装本 (雑誌)		活版	論文「山鹿素行と本居宣長」
54	斯文 第五編第六号 大正十二年十二月一日発行		斯文会	1923 発行	洋装本 (雑誌)		活版	論文「孔子と現代」
50	熊澤蕃山の教育意見他〔中表紙「財団法人明治聖徳記念学会紀要 第貳拾壹巻」〕		財団法人明治 聖徳記念学会	1924 発行	洋装本 (雑誌)		活版	論文「熊澤蕃山の教育意見」
55	会報 昭和三年度 東京帝国大学文学部学友会		東京帝国大学 文学部学友会	1929 発行	洋装本 (雑誌)		活版	論文「御大礼参列の思出」。「東京帝国大学文学部教育学研究室」印。
61	中等学校に於ける音楽教育の研究		東京音 楽学校 同声会	1930 発行	洋装本 (雑誌)		活版	論文「音楽教育について」

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
56	会報 昭和五年度 東京帝国大学文学部学友会		東京帝国大学文学部学友会	1931 発行	洋装本 (雑誌)		活版	論文「ワルトブルヒ」。「東京帝国大学文学部教育学研究室」印。
60	教育 第二巻第一号		岩波書店	1934 発行	洋装本 (雑誌)		活版	論文「本邦教育史研究の意義」
67	本邦教化分布の史的考察〔(一)～(六)〕	春山作樹			こより 綴じ		活版	雑誌切り抜き。メモ付属(67.02)。綴じ破損。

第3項 聴講者講義ノート

48	教育史概説 文学博士春山作樹講述				ノート ブック		ペン	自筆ノートを製本。「日本教育史」「西洋教育史」の二部構成。末尾に「大正12.2.27閉講 〃3.13筆記試験」とあり。表見返しに「西沢 13.9.8 蘭溪文庫」印。
----	------------------	--	--	--	------------	--	----	--

第4項 その他収集資料

46	春山先生追悼文原稿				封筒		鉛筆	
46.02	〔春山作樹追悼文原稿〕	海後宗臣、吉田 熊次、廣瀬豊、松月秀雄等			原稿用紙		ペン	追悼文12通。海後宗臣「春山先生の勸」ほか。『教育思潮研究』掲載のものか。
57	会報 昭和七年度 東京帝国大学文学部学友会		東京帝国大学文学部学友会	1933 発行	洋装本 (雑誌)		活版	春山論文なし
58	会報 8 東京帝国大学文学部学友会〔昭和8年度〕		東京帝国大学文学部学友会	1934 発行	洋装本 (雑誌)		活版	春山論文なし
59	会報 昭和十年度 東京帝国大学文学部学友会		東京帝国大学文学部学友会	1936 発行	洋装本 (雑誌)		活版	春山論文なし
68	姫路中学校二関スル記録				封筒		墨書	破れ。68.02～68.14包込。
68.02	姫路中学校教則				綴	姫路中学校罫紙	墨書	学科課程表あり。68に包込。
68.03	姫路辰野十野中学校教則				綴	姫路中学校罫紙	墨書	68に包込。
68.04	〔学科課程表〕				一紙		墨書	初等中学校四年、高等中学校二年。68に包込。
68.05	飾磨県下等小学課業表			1874年 6月改定	一紙		木版	第八級～第一級。68に包込。
68.06	下等小学教員伝習所課業表			1874年 8月	一紙		木版	「明治七年八月 飾磨県」。第五級～第一級、各級三ヶ月間。68に包込。
68.07	〔「中学教課未定稿」を消し〕				綴	姫路中学校罫紙	墨書	68に包込。

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
68.08	「一 出席点ハ一時間ヲ一点トシ…」				一紙	姫路中学校罫紙	墨書	68に包込。
68.09	〔学科課程表〕				一紙		墨書	本科第一年～第三年、高等科第四年～第五年。68に包込。
68.10	〔学科課程表〕				一紙		墨書	第一年～第四年、さらに第一年～第二年。68に包込。
68.11	教科書表				綴	姫路中学校罫紙	墨書	68に包込。
68.12	明治十一年度 從十一年七月至十二年六月 月費出納一覽表				一紙		墨書	出納科目：納ノ部 六部 民費、県庁御補助金…／出ノ部 諸給料、旅費、宿直料、筆墨料…校舎營繕…。68に包込。
68.13	〔学科課程表〕				一紙		墨書	初等中学科、高等中学科。68に包込。
68.14	〔「各級学科用書籍代価概算」等〕				綴	姫路中学校罫紙	墨書	68に包込。
68.15	兵庫県姫路中学校教則				綴	姫路中学校罫紙	墨書	68に包込。
68.16	教則改正ノ儀ニ付伺				綴	姫路中学校罫紙	墨書	付箋「明治十五年五月教則改正案取調ニ関スル書類」。68に包込。
68.17	姫路中学校規則				綴	姫路中学校罫紙	墨書	68に包込。
68.18	兵庫県姫路中学校教則				綴	姫路中学校罫紙	墨書	68に包込。
68.19	姫路中学校教則				綴	姫路中学校罫紙	墨書	68に包込。
68.20	播磨国三中学校教則				綴	姫路中学校罫紙	墨書	68に包込。
68.21	明治十四年一月改正 龍野中学規則				綴	龍野中学校罫紙	墨書	68に包込。
68.22	姫路中学校規則				綴	姫路中学校罫紙	墨書	表紙朱墨書込「明治十五年六月教則改正伺書届出タル際ノ扣」。68に包込。

第2款 複写物

第1項 春山作樹自筆資料

23	町人興起以前本邦教化の發展（Ⅰ）				ファイル		コピー	自筆原稿のコピー
24	町人興起以前本邦教化の發展（Ⅱ）				ファイル		コピー	自筆原稿のコピー
25	教育学大意（一）		義済会		ファイル		コピー	

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
26	教育学大意（二）		義済会		ファイル		コピー	
28	M42 教育史 罫紙／M43 教育史稿序論と一部のみ／十九世紀に於ける教育の進歩／欧米比較教育制度論				ファイル		コピー	
29	〔タイトルなし〕				ファイル		コピー	
34	第五章 本邦第五期ノ教育〔ノートのコピー、タイトルなし〕				ホチキス		コピー（ペン）	冒頭「第五章 本邦第五期ノ教育」、右肩に「64」
36	明治40年4月起稿 教育史 自筆教育史ノート（M40.4起稿写Bより移動2007.6.9／大正六年四月稿 教育史（構想のみ）／先哲遺訓／教育史概説Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、小冊子／本邦教化史（社会教化学院）／大正九年二月 教育史／本邦教化の史的分布（教育論叢）				ファイル		コピー	
44	自筆教育史ノート（二冊分） M40.4起稿 写B（M40.4起稿 教育史（他へ移動） 2007.6.9移動／T.10（？）聴講者ノート）				ファイル		コピー	「M40.4起稿 教育史」に取消線

第2項 著作刊行物

01	教育学概論		帝国学校衛生会	1924発行	ファイル		コピー	
02	教育学講義（第二分冊）		東洋図書		ファイル		コピー	初版1934年
03	教育学講義（第一分冊）		東洋図書		ファイル		コピー	初版1934年
04	丁酉倫理学会 倫理講演集所収論文（Ⅰ） 214号（大9.6）～311号（昭3.9）			1920-1928	ファイル		コピー	
05	丁酉倫理学会 倫理講演集所収論文（Ⅱ） 320号（昭4.6）～401号			1929-	ファイル		コピー	含「師範大学案に関して」（378号）関係長谷川論文他に神道関係論文
06	日本教育史論関係（Ⅰ）				ファイル		コピー	春山氏日本教育史論関係収録印刷論文（「記憶に残った」は未収）
07	日本教育史論関係（Ⅱ）				ファイル		コピー	春山氏日本教育史論関係未収録論文
08	単行本所収論文				ファイル		コピー	
09	雑誌論文（Ⅰ）				ファイル		コピー	9.02を挟込。
10	雑誌論文（Ⅱ）				ファイル		コピー	
11	雑誌論文（Ⅲ）				ファイル		コピー	
12	雑誌論文（Ⅳ）				ファイル		コピー	
13	雑誌論文（Ⅴ）				ファイル		コピー	
14	日本教育史論関連				ファイル		コピー	春山氏日本教育史論関係
15	春山秀樹『亡文存稿』中、未収録論文				ファイル		コピー	

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
16	最新教育学講義、最近教授法講義				ファイル		コピー	『教授法講義』『最新教育学講義』

第3項 聴講者講義ノート

39	聴講者ノート(II)				ファイル		コピー	
40	聴講者ノート 昭和55.8再綴(1)(各科教授法(永井孝筆記)年度不明/日本教育史演習(西尾寛筆記)昭7年度)/教育学概論 リプリント版 上のみ 昭4年度/教育学概論(筆者不明)昭7年度)				ファイル		コピー	
41	聴講者ノート 昭和55.8再綴(2)((1)の複本)				ファイル		コピー	
42	聴講者ノート 社会教育関係(社会教育学一般 S.6(古木弘造筆記)/社会教育事業通論 巻2(筆者不明)/教育的社会事業通論(筆者不明))				ファイル		コピー	
43	S10年度教育史概説講義ノート(第一分冊)		啓明社		ファイル		コピー	
45	近代教育思想史(江戸時代)三種(S.5年度聴講者筆記ノート 3種(加藤橋夫 永井孝 斎藤武博))				ファイル		コピー	

第4項 その他収集資料

09.02	梅枝漫録(二) 伊川梅子						コピー	9に挟込。書込「江戸時代文化一巻八号」。
-------	--------------	--	--	--	--	--	-----	----------------------

第2部 『春山作樹教育論集』編纂等事務資料

17	春山先生関係(資料貸出) '77.4.4~				綴	「教育改革研究会」 罫紙	ペン	
18	[江森一郎宛名古屋大学教育学部封筒]				封筒			著作集、著作目録作成関係。18.02~18.11を封入。
18.02	[国土社封筒]				封筒			書込あり。封入する物なし。18に封入さる。
18.03	[18.03.01~18.03.02の折込]							18に封入。
18.03.01	[小野哲也発「江森先生」宛書簡]	小野哲也		[1979.12.18]	一紙	国土社原稿用紙	ペン	12月18日付。
18.03.02	☆“流行”超える広がり 「日本教育史論」(春山作樹著) [共同通信配信『日本教育史論』書評のゲラ]	佐藤秀夫		1979.12.13	一紙		コピー(活版)	1979年12月13日付。
18.04	[小野哲也発「江森先生」宛書簡]	小野哲也		[1979.12.26]	一紙	国土社原稿用紙	ペン	12月26日付。18に封入。
18.05	[小野哲也発「江森先生」宛書簡]	小野哲也		[1979.9.7]	折込	国土社原稿用紙	ペン	9月7日付。二枚。18に封入。
18.06	[小野哲也発「江森先生」宛書簡]	小野哲也		[1979.8.31]	折込	国土社原稿用紙	ペン	8月31日付。二枚。18に封入。
18.07	[18.07.01~18.07.03の折込]							18に封入。
18.07.01	[小野哲也発「江森先生」宛書簡]	小野哲也		[1979.7.16]	折込	国土社原稿用紙	ペン	7月16日付。二枚。

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
18.07.02	〔小野哲也発「江森先生」宛書簡〕	小野哲也		〔1979.7.6〕	折込	国土社原稿用紙	ペン	7月6日付。三枚。
18.07.03	〔小野哲也発「江森先生」宛書簡〕	小野哲也		〔1979.5.4〕	折込	国土社原稿用紙	ペン	5月4日付。二枚。
18.08	〔国土社編集部小野哲也より「江森先生」宛書簡〕	小野哲也		〔1979.8.4〕	折込	国土社原稿用紙	ペン	8月4日付。五枚。18に封入。
18.09	〔編集部渡部金五郎発江森一郎宛国土社封筒〕〔手紙一通二枚封入〕							18.09.02を封入。18に封入。
18.09.02	〔「渡部」発書簡〕			1979.8.1	折込	国土社罫紙	ペン	1979.8.1付。二枚。18.09に封入。
18.10	7月18日国土社 小川、春山先生河原さん宛〔手紙・葉書計三通コピー〕				一紙		コピー（ペン）	18日付渡辺（ママ）金五郎・小野哲也宛書簡一通、ほか葉書二通のコピー。
18.11	〔江森一郎宛国土社封筒〕				封筒			18.11.02を封入。
18.11.02	〔株式会社国土社経理部・編集部発「著者各位」宛書簡〕				一紙		青 焼（ペン）	昭和55年2月付。18.11に封入。
19	〔「春山作樹教育論集」刊行委員会賛助会員募集の書簡案〕				ホチキス		コピー（ペン）	「小川」名の通信文をコピー原稿に書込。案文内の日付として「一九七九年五月五日」とあり。
20	春山作樹教育論集・刊行の辞〔案〕						青 焼（ペン）	九枚。原本は「教育現代社」原稿用紙。「ともかく一応作ってみました」云々の「小川」名の書込。
21	春山作樹の教育史研究業績をどう受けとめるか	江森一郎		1977.11.26	ホチキス		青焼	第201回 日本教育史学会例会（'77.11.26）発表要旨
22	春山作樹著作目録 春山会〔同一のもの二部〕	春山会			ホチキス		青 焼（活版）	同じものの二部。青焼きの原版に「名大教育学部社会教育研究室発行『年報』（1977）所載」と手書き。
27	春山作樹氏著作、論文、関係資料				ファイル		謄写、コピー、ペン等	『日本教育史論』編纂時における江森一郎所持資料。「著作一覧 S51.6月末日現在」、「プリント、ノート類所持者一覧 S51.9.2現在判明のもの」、一巻～五巻の構成案、「春山作樹教育学全集」編集委員会（海後宗臣、飯田隼三、碓井正久、橋口菊、小川利夫、江森一郎）より資料情報提供をよびかける書簡、「春山会 会 報 N o 1 1976.5.1」、など綴込。また表見返しに27.02～27.10、裏見返しに27.11～27.12挟込。

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
27.02	春山作樹氏の日本近世教育史論	江森一郎		1977.10.3	ホチキス		謄写(ペン)、青焼き(ペン)	'77.10.3第21回教育史学会発表要旨
27.03	〔『日本教育史論』修正基準案〕				ホチキス		コピー	記名「江森」。二枚。
27.04	春山作樹著作目録 春山会				ホチキス		青焼き(活版)	青焼きの原版に「名大教育学部社会教育研究室発行『年報』(1977)所載」と手書き。「修正用底本」とペン書き込み。その他書き込み多数。
27.05	孔子と現代 春山作樹				折込		コピー	7枚。『斯文』5編6号。
27.06	〔『日本教育史論』目次原稿〕				ホチキス		コピー(ペン)	原本は国土社原稿用紙。一枚目右肩に「江森さん」と鉛筆。
27.07	〔27.07.02～27.07.24の折込〕				折込			全26枚。
27.07.01	春山作樹氏「日本教育史論」構成案 '77.6.28				一紙		青焼	
27.07.02	春山作樹氏「日本教育史論」構成案 '77.6.28				一紙		青焼	
27.07.03	春山氏「日本教育史論」(追録検討資料) '77.6.21				一紙		青焼	
27.07.04	春山氏「日本教育史論」(追録検討資料) '77.6.21				一紙		青焼	
27.07.05	〔『日本教育史論』修正基準案〕				ホチキス		コピー	記名「江森」。二枚。
27.07.06	春山作樹氏「日本教育史論」構成案 '77.6.28				一紙		青焼	
27.07.07	春山氏「日本教育史論」(追録検討資料) '77.6.21				一紙		青焼	
27.07.08	教育学概論 収録予定論文				一紙	「C o p y」ルーズリーフ	ペン	
27.07.09	教育学概論 構成案				一紙	「C o p y」ルーズリーフ	ペン	
27.07.10	教育学概論関係論文				一紙	「C o p y」ルーズリーフ	ペン	
27.07.11	〔「教育学関係論文」の続き〕				一紙	「C o p y」ルーズリーフ	ペン	27.07.11の続き。
27.07.12	確認事項				一紙	「C o p y」ルーズリーフ	ペン	27.07.11の続き。
27.07.13	春山作樹氏「日本教育史論」「概説」関係検討資料 '77.4				一紙		コピー(ペン)	右肩に「No.1」。

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
27.07.14	記述の具体的比較〔春山作樹氏「日本教育史論」〔概説〕関係検討資料'77.4〕の続き〕				一紙		コピー (ペン)	右肩に「No.2」。
27.07.15	〔春山作樹氏「日本教育史論」〔概説〕関係検討資料'77.4〕の続き〕				一紙		コピー (ペン)	右肩に「No.3」。
27.07.16	〔春山作樹氏「日本教育史論」〔概説〕関係検討資料'77.4〕の続き〕				一紙		コピー (ペン)	右肩に「No.4」。
27.07.17	春山作樹氏「日本教育史論」(検討資料)				一紙		コピー (ペン)	右肩に「No.1」。
27.07.18	日本教育史論関係(構成案)				一紙		コピー (ペン)	右肩に「No.2」。
27.07.19	第四回編集委員会資料 1973.3.29〔ママ〕			1973. 3.29 〔ママ〕	一紙		コピー (ペン)	左肩ペン書き「江森用」。
27.07.20	第四回編集委員会資料 1973.3.29〔ママ〕			1973. 3.29 〔ママ〕	一紙		コピー (ペン)	
27.07.21	春山作樹「日本教育史論」表記上の方針(案)'78.1.12			1978. 1.12	一紙		青 焼 (ペン)	
27.07.22	春山作樹氏「日本教育史論」(構成案)'77.5.16(検討資料)			1977. 5.16	一紙		コピー (ペン)	左肩ペン書き「江森用」。ペンで「碓井」「江森」「小川」等人名書き込みあり。
27.07.23	第三回編集委員会資料 1973.2.23〔ママ〕(於碓井研)			1973. 2.23 〔ママ〕	ホチキス		コピー (ペン)	二枚。
27.08	仮名づかいの改め方				折込		青焼	4枚。右下に「10/4」。
27.09	日本教育史論(編集案'78.10.4)			1978. 10.4	ホチキス		コピー (ペン)	
27.10	春山氏「日本教育史論」(追録検討資料)'77.6.21				一紙		青焼	「海後先生」宛ペン書込あり。
27.11	春山作樹著作目録 春山会				ホチキス		活版	「修正用底本」とのペン書き込みを赤で消し。書き込み多数。
27.12	〔凡例の原稿〕				一紙		コピー	原本は国土社原稿用紙。
30	著作刊行よびかけの返信〔海後宗臣宛名古屋大学教育学部封筒〕				封筒			30.02～30.08を封入。封筒に「著作刊行よびかけの返信」と表書。封筒左下に⑤と書込。
30.02	春山先生全集編集関係〔小川利夫発海後宗臣宛封筒〕				封筒			30.02.02～30.02.03を封入。30に封入。
30.02.02	〔小川利夫発「海後先生」宛書簡〕				一紙	名古屋大学野紙	ペン	8月7日付。30.02に封入。
30.02.03	〔30.02.03.01～30.02.03.02の折込〕							30.02に封入。
30.02.03.01	〔「春山作樹教育学全集」編集委員会(海後宗臣、飯田晃三、碓井正久、橋口菊、小川利夫、江森一郎)より資料情報提供をよびかける書簡〕			1976. 8.3	一紙		謄 写 (タイブ)	1976年8月3日付。
30.02.03.02	春山作樹博士主要著作一覧(S.51.7月中旬までに判明のもの)				一紙		コピー (ペン)	原版はレポート用紙一枚にペン書き。
30.03	〔西尾寛(昭和九・卒)発小川利夫宛封筒〕			1976. 8.6 消印	封筒			30.03.02～30.03.03を封入。30に封入。

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
30.03.02	〔書簡〕				一紙	便箋	ペン	二枚折込。30.03.03と同じ用紙。30.03に封入。
30.03.03	〔西尾発「小川君」宛書簡〕				一紙	便箋	ペン	8月6日付。30.03.02と同じ用紙。30.03に封入。
30.04	〔名大教育学部内社会教育研究室発 江森一郎宛葉書〕			1977. 11.30 消印	葉書		ペン	30に封入。
30.05	〔斉藤武博発 江森一郎宛書簡〕			1977. 11.1 消印	葉書		ペン	30に封入。
30.06	〔小川利夫発 海後宗臣宛書簡〕				一紙	名古屋 大学罫 紙	ペン	8月18日付。
30.07	〔30.07.01～30.07.03の折込〕				折込			30に封入。
30.07.01	〔メモ「九大教育学部 遠藤辰雄……」〕				一紙	ノート ブック の切り 離し	ペン	
30.07.02	〔書簡コピー〕				一紙		コピー (ペン)	ペン書込「西尾実〔ママ〕S.9」。原版は二枚。30.03.02の複写。
30.07.03	〔葉書5枚コピー〕			1976.8 上旬頃 消印	ホチキ ス		コピー	二枚。葉書5枚のコピー。いずれも小川利夫宛。
30.08	〔30.08.01～30.08.02の折込〕							30に封入。
30.08.01	〔葉書5枚コピー〕			1976.8 上旬頃	ホチキ ス		コピー	二枚。葉書5枚のコピー。いずれも小川利夫宛。
30.08.02	〔葉書5枚コピー〕			1976.8 上旬頃	ホチキ ス		コピー	二枚。葉書5枚のコピー。いずれも小川利夫宛。
31	自筆履歴書				封筒		ペン	31.02を封入。無地封筒に「自筆履歴書」とペン書き。左下に④と書込。
31.02	履歴書				ホチキ ス		コピー (ペン)	五丁。春山履歴書のコピー。昭和10年10月まで。31に封入。
32	著作目録 「研究業績をどう受けとめるか」				封筒		ペン	無地封筒に標題をペン書き。左下に③と書込。封入物なし。
33	編集委用プリント類残部				封筒		ペン	無地封筒に標題をペン書き。左下に②と書込。33.02～33.04を封入。
33.02	春山作樹著作目録 春山会				ホチキ ス		青 焼 (活版)	青焼きの原版に「名大教育学部社会教育研究室発行『年報』(1977) 所載」と手書き。33に封入。
33.03	春山作樹著作目録 春山会				ホチキ ス		青 焼 (活版)	青焼きの原版に「名大教育学部社会教育研究室発行『年報』(1977) 所載」と手書き。33に封入。
33.04	〔33.04.01～33.04.10の折込〕							33に封入。
33.04.01	春山作樹氏「日本教育史論」構成案 '77.4.4現在			1977. 4.4	一紙		コピー (ペン)	
33.04.02	春山作樹氏「日本教育史論」概説 関係検討資料 '77.4				一紙		コピー (ペン)	右肩に「No.1」。

資料番号	標題	著作者等	発行者等	参考年	形態	用紙等	印刷	備考
33.04.03	記述の具体的比較〔春山作樹氏「日本教育史論」〔概説〕関係検討資料 '77.4」の続き〕				一紙		コピー (ペン)	右肩に「No.2」。
33.04.04	〔春山作樹氏「日本教育史論」〔概説〕関係検討資料 '77.4」の続き〕				一紙		コピー (ペン)	右肩に「No.3」。
33.04.05	〔春山作樹氏「日本教育史論」〔概説〕関係検討資料 '77.4」の続き〕				一紙		コピー (ペン)	右肩に「No.4」。
33.04.06	第四回編集委員会資料 1973.3.29〔ママ〕			1973. 3.29 〔ママ〕	一紙		コピー (ペン)	
33.04.07	第四回編集委員会資料 1973.3.29〔ママ〕			1973. 3.29 〔ママ〕	一紙		コピー (ペン)	
33.04.08	春山作樹「日本教育史論」表記上 の方針(案) '78.1.12			1978. 1.12	一紙		青 焼 (ペン)	
33.04.09	春山作樹「日本教育史論」表記上 の方針(案) '78.1.12			1978. 1.12	一紙		青 焼 (ペン)	
33.04.10	春山作樹「日本教育史論」表記上 の方針(案) '78.1.12			1978. 1.12	一紙		青 焼 (ペン)	
35	橋口先生(林三平先生より拝借した『教育研究会講演集』二冊)				封筒		ペン	無地封筒に標題をペン書き。封入物なし。
37	春山作樹博士、自筆講義ノート(M40起稿) No.1 1～48 江森転写				綴		ペン	
38	春山作樹博士、自筆講義ノート(M40起稿) No.2 49～ 江森転写				綴		ペン	
47	教育史関係目録				一紙		ペン	
49.02	〔著作標題を書いたメモ〕				一紙		ペン	49に挟込。
51.02	〔『芸術教育論』についてのメモ〕				一紙	東京大 学出版 会原稿 用紙	ペン	51に挟込。
66.02	〔メモ〕				一紙		ペン	「⑨日本近代教育説資料(ノート1冊) S.5(特殊講義に本邦近代教育思想あり)」。66に付属。
67.02	〔メモ〕				一紙		ペン	「⑦教育論叢6巻8巻本邦教化分布の史的考察1～6 大10～11年」。67に付属。
72.02	〔メモ〕				一紙		ペン	「19世紀に於ける教育の進歩(一冊) 欧米比較教育制度論(一冊)……」。72に付属。
75.02	〔メモ〕				一紙		ペン	「教育史概説1袋(三月)教育史大6.4 先哲遺訓……」。75に付属。

第3部 その他

79	遺稿 故春山作樹教授 要保存				封筒		ペン	自筆資料等を包んでいた封筒。二重になっている。破れ。
----	----------------	--	--	--	----	--	----	----------------------------